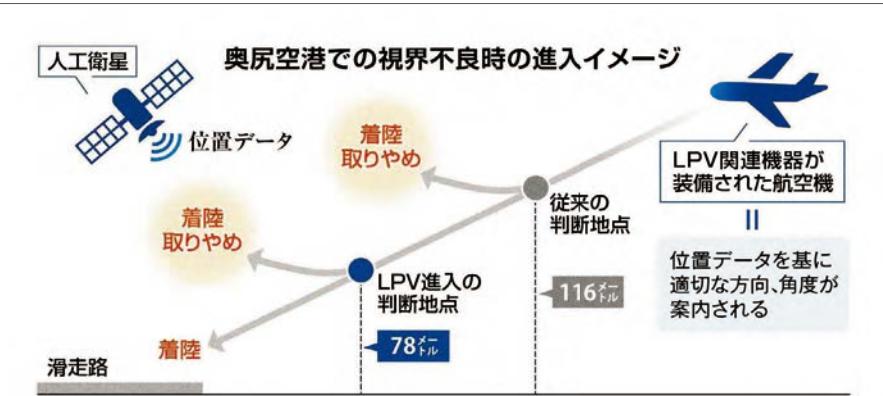




解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ!

ワークシート



旅客機着陸衛星が支援

北海道エアシステム（HAC）は今月、霧などで空港周辺の視界が悪い場合でも、航空機が適切な方向・角度で滑走路に進入できる運用方式「LPV」の運用を始めた。人工衛星から航空機に送られる位置情報を活用する仕組みでHACによると国内での導入は初めて。まずは丘珠、釧路、奥尻、利尻の4空港で取り入れ、対象空港の拡大も検討する。多くの空港は悪天候に備えて、滑走路から電波を送つて航空機を誘導する計器着陸装置（ILS）を備えており。LPVは衛星利用測位シ

スーム（GPS）などから便数が少ない離島の奥尻、利尻両空港では未導入。釧路空港はILSを備えていながら滑走路片側からの進入時しか対応しておらず、丘珠空港はILSほど精密な着陸誘導装置がない。4空港での視界不良時の就航率向上が課題となっていた。国土交通省は2年ほど前から、欧米で実用化されているLPVの国内導入に向け、運用方法を検討。これにHACも関わっており、HACも関わっており、得て運用を始めた。HACは関連機器の導入費用は公表していない。

HACの担当者は「離島や釧路は霧が発生しやすい地域。LPVの導入で就航率を高め、利便性を向上させたい」と話している。（田中華蓮）

HAC

道内4空港で初運用

視界不良の就航率改善

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

『北海道新聞』
2022年9月19日(月)朝刊(全道版)

- (1) ■とありますが、運用を始めた4空港には共通するどのような課題がありましたか。その理由も含めて簡単に説明しなさい。

- (2) ■とありますが、LPVの導入によって視界不良時の就航率が改善すると見込まれるのは、どのような理由からですか。簡単に説明しなさい。